

【 熱測定討論会 50 周年・日本熱測定学会設立 40 周年記念特集 ― 巻頭言 】

熱測定討論会 50 周年・日本熱測定学会設立 40 周年記念特集号の発行を祝って

熱測定討論会 50 周年・日本熱測定学会設立 40 周年記念事業
実行委員長

吉田 博久

第 50 回記念熱測定討論会と 40 周年記念式典が、多くの会員の方々のご協力で盛会裡に終わりました。1965 年秋に第 1 回熱測定討論会が開催されました。運営組織として 1969 年 11 月に熱測定研究会が発足しました。その後研究会は 1973 年 10 月から日本熱測定学会となります。記念討論会と記念式典は、昨年に日本熱測定学会が設立 40 周年を迎え、本年が 50 回目の討論会となることから、2012 年の秋から準備を進めてきました。準備委員会では、これまでの 50 年の討論会と学会の活動を振り返り、これからの 50 年の活動を考える機会となる記念行事を企画しました。

記念式典は記念討論会 2 日目の午後 (9 月 29 日) に、第 1 部の講演会と第 2 部の記念行事を大阪大学会館で、夕方から記念式典祝賀会を千里阪急ホテルで開催いたしました。講演会では、第 1 回熱測定討論会から毎回参加されている徂徠道夫先生に「討論会 50 周年を顧みて」と題する特別講演をお願いいたしました。熱測定討論会の始まりと熱測定学会の発足の状況を当時の世界の熱測定研究の動きと合わせてお話しいただきました。「これからの熱測定の役割」と題する学術講演は、精力的にこの分野で研究を進めている齋藤一弥先生と森川淳子先生にお願いしました。どちらもこれからの熱測定研究の方向性を考える上で示唆に富む講演でした。記念行事では、関連する各団体からのご祝辞をいただいた後に、記念講演を菅宏先生、八田一郎先生、石切山一彦先生に、それぞれ「熱測定」、「熱分析」、「企業」という立場からお願いしました。

本特集号は、記念式典の様子をすべての会員の皆さんにお知らせし、討論会 50 年の歴史を記録し、これからの 50 年に向けた資料として発行いたします。特集号は、齋藤一弥先生と花屋実先生をゲストエディターとして編集委員会のご協力のもとで編集してきました。記念式典での特別講演、学術講演や御来賓からのご挨拶などを改めて掲載させていただきました。花屋先生と齋藤先生には、熱測定誌の記事を元に「データで振り返る熱測定討論会の 50 年」を執筆いただきました。会員の方々には本特集号をお読みいただき、これからの 50 年に向けた本会の取り組みに積極的にご参加いただければ幸いです。

記念式典の開催と特集号の発行に関して、記念式典実行委員、学会事務局の全面的なご協力を得ました。とりわけ第 50 回記念熱測定討論会実行委員長の中澤康浩先生と阪大の関係各研究室の皆さんには、討論会前日に開催された“The International Symposium on Structural Thermodynamics 2014 in Memory of Prof. Syuzo Seki”, 記念討論会、記念行事の運営を立派にさせていただいたことに感謝申し上げます。これらの行事を通して、学生を含む若手の方々が積極的に学会活動と研究に取り組んでいる姿を拝見し、これからの熱測定研究に期待したいと感じています。



【 熱測定討論会 50 周年・日本熱測定学会設立 40 周年記念特集 一会长挨拶 】

祝 熱測定討論会 50 周年・日本熱測定学会設立 40 周年

日本熱測定学会 会長 木村 隆良

熱測定討論会 50 周年、日本熱測定学会設立 40 周年おめでとうございます。会員の皆様と共に祝い申し上げたいと存じます。

熱測定討論会は1965年11月、大阪大学松下会館で日本化学会主催により、約200名の研究者があつまり開催したのが最初でその後大きく発展してまいりました。本学会は関集三先生のイニシアティブのもと向坊隆先生、丹羽貴知蔵先生、神田英蔵先生、藤代亮一先生、神戸博太郎先生、益子洋一郎先生、千原秀昭先生、須藤俊男先生、小野宗三郎先生、斎藤進六先生、大坪義雄先生とともに準備委員会が結成され、第1回熱測定討論会の開催となりました。1969年11月には熱測定研究会、1973年10月から日本熱測定学会として改組発展しました。本学会は先達の先生の達観により世界的な潮流のさきがけ的な時期にその重要性を認知し、出発しました。熱測定学会の目的は、「熱測定（熱量測定・熱分析・その他の熱力学諸量と熱物性測定） およびこれと密接に関連した科学に興味をもつ研究者相互の連絡を通じ、熱測定に関する科学および技術の研究と応用を促進することにあります」と記載されています。諸外国での類似した学会の設立趣旨と異なり、最初から設立目的が熱量測定・熱分析・その他の熱力学諸量と熱物性測定と謳われており、熱量測定と熱分析の2つの分野の研究者が互いに協力し、情報を交換し合って学際的領域の性格を維持してきた点が大きな特徴と言えます。現在多くの学会がこれに倣っております。

創設当時から継続している主な事業は熱測定討論会の開催による研究交流と合わせて、社会貢献のため初心者のための熱測定講習会の開催（すでに 73 回開催）、熱測定ワークショップの開催、講演会の開催、グループ活動などがございます。

さらに特筆するものは 1970 年 1 月からニューズレターが発刊され、発展した機関誌が会誌「熱測定」です。世界では他に例がなく、今日に至るまで毎年 4 冊（以前は 5 冊の時もあった）が発刊されており、現在その Vol.ナンバーは 41 巻にまで達しております。

また「熱分析の基礎と応用」の発刊、熱量測定と熱分析について測定原理から応用まで幅広く網羅した世界初のハンドブック「熱量測定・熱分析ハンドブック」を編集し、広範な分野で活用され、英語版

も発刊されています。

一方、国際的には第 5 回 ICTA をアジアでは初めて誘致し、20 か国で 119 名の参加の成功に続き、第 12 回化学熱力学国際会議が 1996 年大阪で開催され、参加者数 575 名、38 か国／1 地域、発表数 529 件の発展につなりました。さらに、2010 年第 21 回化学熱力学国際会議がつくば市で開催され、その参加者数 665 名、36 か国／1 地域、発表件数 540 件とかつてない最大規模の会議が開催されました。2012 年には東大阪市で第 15 回国際熱測定会議が開催され、世界のリーダー的役割を果たしております。また東アジア地域のこの分野の発展のために中国から要請があり第 1 回の日中合同熱測定シンポジウムが 1986 年杭州、浙江大学で開催され、1990 年には第 2 回が東大阪、近畿大学で、西安で開催された第 3 回から国際を加え、つくば、蘭州、福岡、大連、八王子とすでに第 6 回国際ならびに第 8 回日中合同熱測定シンポジウムが開催されました。本年 10 月、第 7 回国際ならびに第 9 回日中合同熱測定シンポジウムが杭州で開催され、その発展が進んでいます。また米国 Calorimetry Conference との合同会議がハワイで 5 年ごとに開催されております。

以上はこれまでの先達の先生方の成果でございます。この第 50 回記念熱測定討論会は先達から指導を受け、なし得たマイルストーンであります。先達の先生方に感謝し、これからも種々の事業を通じて、極低温から超高温までの温度依存性を中心とした実験技術と、熱力学や速度論を基本とした現象の理解を共通の基盤として広範な領域の専門家が議論し、この領域の発展と成果の社会への還元に邁進を続けることと存じます。

末尾ではございますが、第 50 回記念熱測定討論会ならびに日本熱測定学会設立 40 周年記念事業を企画して頂きました実行委員長の吉田博久先生をはじめ、委員の中澤康浩先生、斎藤一弥先生、花屋実先生、西本右子先生、山崎淳司先生に感謝申し上げます。



